

〇公的医療機関等 2 0 2 5 プランの概要

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精・感・結 除く) (2022. 5. 1) ※1	主な 役割	病床機能 報告による 病床数 (2021. 7. 1) ※2	病床機能 報告による 病床数 (2025. 7. 1) ※2	プランに よる機能 別病床数 (2025. 7. 1)	施設基準 の状況(床) (2022. 5. 1) ※3	自施設の現状	自施設の課題	今後担うべき役割	今後持つべき病床機能	担う役割※4												
													がん	脳 卒中	心 血管 疾患	糖尿 病	精神 疾患	救急	災害	へき 地	周 産 期	小 児	在 宅		
1	仙台	国家公務員共済組合連合会 東北公済病院	385 一般 385	二次救急	385 急性 回復 80	385 急性 回復 80	385 急性 回復 95	ケア病棟 35 回復リハ 40	・乳腺外科や産科・産婦人科などに代表される女性疾患に強み。病床数に比して手術室を使用した手術、特に全身麻酔症例を多く実施。サブアキュート機能の体制を整備。	・高齢化に伴い増加が見込まれる疾病（成人肺炎など）への積極的な対応。救急自動車の積極的な受け入れ体制整備。	・段階的に積極的な救急搬送患者受け入れを行い、二次救急医療施設としての役割を担う。地域の医療施設との積極的な連携により「支える」診療の領域を構築。	急性期Ⅰ・回復期Ⅰ	○	○	○	○	○			○	○	○			
2	仙台	東北大学病院	1118 一般 1118	特定機能 三次救急 二次救急	1118 高度 急性 859 259	1118 高度 急性 859 259	1118 高度 急性 713 405		・医療人養成のための教育機関、新しい医療技術の研究・開発を実施する研究機関、高度な医療を提供する地域の中核的な医療機関としての役割を担っている。また、臨床研究中核病院に指定され、臨床研究推進ための拠点となることが期待されている。がんゲノム医療中核拠点病院にも指定され、東北地方等のがんゲノム医療のけん引役としても期待されている。	・病床運用をより円滑に行い、多くの患者に先進的な高度医療を提供可能な体制を構築すること。	・世界の医療をけん引するリーディングホスピタル、地域を支える中核病院、救急医療、移植医療、周産期医療を担う。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ	○	○	○	○	○	○		○	○				
3	仙台	一般財団法人厚生会 仙台厚生病院	409 一般 409	地域支援 二次救急	409 高度 急性 174 235	409 高度 急性 174 235	409 高度 急性 178 231		・心臓血管・消化器・呼吸器の3センターによる高度先進医療・急性期医療が提供可能なシステム構築を行ってきた。	・仙台区域では、全ての機能で大幅な需要増加が見込まれる。自院が果たしてきた高度急性期及び急性期機能を維持・充実する必要がある。	・2024年病院新築移転により医療提供体制をさらに充実させ、東北の医療を支える役割を担う。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ [移転予定あり]	○		○	○	○								
4	仙台	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院	548 一般 548	地域支援 二次救急	548 高度 急性 58 391 回復 55 休棟（今後 再開） 44	548 高度 急性 58 391 回復 55 休棟予定 44	548 8 高度 急性 485 回復 55	ケア病棟 55	・予防医療をはじめ急性期医療、がん医療、リハビリテーション・職場復帰に至るまで一貫した高度・専門的医療を提供している。また、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携し医療の質を高めている。	・地域医療構想を踏まえ急性期医療の展開と地域包括ケアシステムへの貢献、必要な医師をはじめとする人員確保等院内体制の充実・強化を図る。	・政策医療の一環であるがん分野における治療と就労の両立支援、生活習慣病の改善及びアスベスト関連疾患の健康診断、治療、研究、過労死予防活動はもとより、救急・災害医療を含め積極的に取り組んでいく。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ 回復期Ⅰ	○	○	○	○		○	○			○			
5	仙台	独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	384 一般 384	二次救急	384 急性 384	384 急性 384	384 336 回復 48	ケア病棟 48	・移転に伴い、地域医療支援病院は一旦取り下げとしたが、再指定に向け、引き続き紹介外来制の原則及び救急医療体制に取り組むほか、地域の医療従事者の資質向上を図るための研修も定期的に開催している。 ・救急搬送件数も増加傾向にあり、また、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての責任も担い、地域に根付いた医療提供を行っている。	・地域医療支援病院の再指定を目指し、救急医療体制の強化、及び超高齢化社会に向け需要が増加する分野の拡大が課題。	・大規模災害発生時にも一定の機能を維持し、当区域北部において、災害拠点病院に準ずる機能を持つ病院としての役割を目指す。また、小児科新設に伴い、より幅広い地域医療ニーズに対応できる医療機関としての役割を担っていく。	急性期Ⅰ・回復期Ⅰ	○		○	○			○						
6	仙台	東北医科薬科大学病院	554 一般 554	地域支援 二次救急	554 高度 急性 14 540	554 高度 急性 14 540	554 14 高度 急性 540		・地域の拠点病院として医療機能の向上に努めてきた。医学部開設後、東北の地域医療を支える医師養成が使命に加わったこともあり、一層の医療機能の充実・強化を進め、東北地方全体を視野に、より広域の医療を支える役割を担う。	・特定機能病院化を目指し、診療機能および教育・研究機能の充実、管理運営体制の整備が課題。	・課題解決により、東北地方の医療を将来にわたって担い、超高齢化社会における地域医療体制の構築に資する。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ	○	○	○	○	○	○			○				
7	仙台	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	628 一般 628	地域支援 三次救急 二次救急	628 高度 急性 437 191	628 高度 急性 437 191	628 437 高度 急性 191		・高度総合医療施設として位置づけられ、また、宮城県の基幹災害医療センター、原子力災害拠点病院、地域医療支援病院として指定され、災害時における医療及び地域医療の確保を図る病院としての役割を担っている。	・宮城県の三次救急医療施設として、充実強化のため救急センターを増床した。また、救急医療体制の強化のため、救急科医師や心臓血管外科医師を増員し、より安定的な受け入れ体制の確保が必要。	・更なる救急患者受入体制の拡充。神経系疾患への対応を中心とした高度急性期機能の提供維持。東北地区のがん、循環器病及び成育医療の基幹施設として、高度急性期、急性期機能を維持。宮城県の基幹災害医療センターとして災害時の医療体制の充実と強化を図る。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ	○	○	○	○	○	○		○	○				
8	仙台	公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院	330 一般 330	地域支援 二次救急	330 高度 急性 16 314	330 高度 急性 16 314	320 16 高度 急性 304		・紹介外来型の病院として外来機能より入院機能を充実させ医療を展開してきた。平均在院日数に関して、急性期医療における短縮化を図っている。	・急性期医療の適応患者受入施設として体制強化の検討が必要。また、二次救急を中心に展開しているが、一次救急の受け入れも行っており、一次救急、二次救急のバランスも課題。	・地域の中核病院として他病院並びに診療所を支援する医療機関としての役割を担っていく。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ	○	○	○		○				○				
9	仙台	独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台南病院	199 一般 199	二次救急	199 急性 回復 159 40	199 急性 回復 159 40	199 159 急性 回復 40	ケア病棟 40	・診療部門に加えて健診部門を担当する健康管理センター及び介護老人保健施設を併設しており、疾患の予防から診察そして老人の介護・生活支援までを一貫して行える施設として整備。	・1人体制となっている診療科及び不在となっている診療科の医師確保、さらに診療内容充実に向けた新たな診療科医師の確保。健診受診者数の確保。附属介護老人保健施設利用者の確保。	・人々が抱える多様なニーズに応えるため、「急性期医療→回復期リハビリ～介護」を含むシームレスなサービスを提供し、地域医療・地域包括ケアの確保に取り組み、安心して暮らせる地域づくりに貢献する。	急性期Ⅰ・回復期Ⅰ	○		○	○		○			○				
10	仙台	仙台赤十字病院	389 一般 389	地域支援 二次救急	389 高度 急性 41 298 回復 50	389 高度 急性 41 298 回復 50	335 41 高度 急性 252 回復 42	ケア病棟 30	・NICU、GCU、MFICUは高度急性期医療、地域包括ケア病棟は回復期医療、その他の病棟は急性期医療（7対1）として地域と連携しながら、医療提供の推進を図っている。	・救急医、総合診断医、神経内科医、精神科医、整形外科医の確保と臨床研修医の育成。救急室、手術室などの整備、PT、OT、STなどリハビリテーションスタッフや介助スタッフの確保。	・現状の稼働病床301床を維持しつつ、高度急性期、急性期医療、回復期を担う病院運営を行う。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ 回復期Ⅰ	○	○			○	○		○	○				
11	仙台	独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院	440 一般 440		440 急性 回復 50 100 慢性 290	440 急性 回復 50 100 慢性 290	440 50 急性 回復 100 290	ケア病棟 50	・急性期病棟を担当する整形外科の脊椎外科分野手術については知名度及び評価も高く実績は宮城県内ではトップで年間約650件を施行している。 ・重症心身障害児（者）の病床（80床）は、宮城県内の収容施設として中核的病院としての役割を担っている。 ・筋ジストロフィー病床（160床）は、全国でもトップの病床数で宮城県内の中心的病院としての役割を担っている。 ・整形外科の脊椎手術件数は増加傾向にあるが、開窓手術から低侵襲の内視鏡手術に変わり、平均在院日数の短縮化により、在院患者数が減少したため、令和2年度に急性期病床を40床削減したが、効率の良い運用方法により入院患者数を維持している。	・宮城県内の医療機関については、公的医療機関が病床数を占める割合が高く、県庁所在地である仙台医療圏の仙台市に集中し、医師についても仙台医療圏に集中している状況。 ・当院も仙台医療圏に位置しているものの、令和2年3月まで医師充足率は100％を下回っていたが、各連取組みによる医師確保により、令和2年4月以降は100％の充足率を維持している。引き続き医師確保に努め、医師充足率を維持していく。	・現状の整形外科「脊椎外科分野における診療の維持及び強化」、その他神経難病、脊椎疾患、重症心身障害、筋ジストロフィー等の専門性の高い診療を今後も継続維持している。さらに、高齢化に伴い増えてくると思われる、認知症、骨折、肺炎、心不全の4分野についての取り組みが必要と考え、当院は認知症及び骨折についての診療を強化することとしている。 ・現在、宮城県より宮城県難病医療ネットワーク拠点病院、仙台市より認知症患者医療センターの指定を受けており、その役割を引き続き担っていく。	急性期Ⅰ・回復期Ⅰ 慢性期Ⅰ			○										○
12	仙台	公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院	357 一般 357	地域支援 二次救急	357 高度 急性 305 46 回復 46	357 高度 急性 305 46 回復 46	357 6 高度 急性 305 回復 46	回復リハ 46	・急性期・回復期・在宅を含めた連携によるシームレスな医療・介護で安心して住み続けられるよう、地域の医療機関と連携し、地域完結型の医療を目指している。	・入院ベットの効率化と急性期を脱した患者を紹介できる病院との連携構築。高齢者のがん患者の総合的な受入体制と地域開業医との関係で要求に応えていく。リスク管理が必要な周産期や小児科機能の維持発展。急性期医療の機能を維持するための看護師確保が不安定。	・急性期疾患の患者の積極的な受入。診断から緩和まで包括的ながん診療体制の提供。周産期や小児科の紹介患者の受入。合併症を抱えた高齢者の急性期患者の受入。開業医や地域連携病院からの紹介を積極的に担う。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ 回復期Ⅰ		○	○	○		○	○		○	○			
13	仙台	独立行政法人国立病院機構 宮城病院	344 一般 344	二次救急	344 急性 回復 60 44 慢性 240	334 急性 回復 50 44 慢性 240	334 50 急性 回復 44 慢性 240	ケア病棟 44	・難病を中心に、急性期脳血管疾患から重症心身障害児（者）に対する政策医療など専門医療機関としての役割を担っている。	・地域との連携強化のため、医療関係機関や介護施設等との定期的な情報交換など引き続き積極的に連携を強化する必要がある。	・広域的に宮城県神経難病ネットワーク拠点病院としての役割や政策医療の専門医療機関としての役割を担い、地域医療（在宅医療を含む）の充実と二次救急医療への積極的な参画を行う。（二次救急医療や地域包括ケアシステムへの参画など）	急性期Ⅰ・回復期Ⅰ 慢性期Ⅰ			○			○				○			
14	石巻・登米・気仙沼	石巻赤十字病院	460 一般 460	地域支援 中核的 三次救急 二次救急	446 高度 急性 46 380	426 高度 急性 46 380	420 66 高度 急性 354		・地域完結型医療の中心的役割を担い、入退院支援体制の組織的強化や初診紹介患者専門ダイヤルの開設など、地域他医療機関やかかりつけ医との連携強化を図る様々な施策を実施している。	・主な疾患における医療需要はいずれも増加が見込まれており、「地域完結型医療」を一段と推進すべく、現時点で需要に応えていない分野において、医療職の増員などの体制強化が必要となる。また、地域の医療機関との連携に一層注力し、前方及び後方連携の質的向上と患者思考の切れ目のない医療提供体制の構築を図り、機能分化を牽引していく。	・高度急性期および急性期の要であり続けることが求められるため、高機能病床を地域のニーズに合わせた規模に必要に応じて拡充する。また、他の医療機関との後方連携強化により、高機能病床の特色をこれまで以上に明確にしていく。	高度急性期Ⅰ・急性期Ⅰ	○	○	○	○		○	○	○	○	○			

※1：東北厚生局「届出受理医療機関名簿」の病床数を記載
※2：令和3年度病床機能報告の値を記載
※3：東北厚生局「届出受理医療機関名簿（届出項目別）」において、【ケア病棟：地域包括ケア病棟入院料】、【ケア病床：地域包括ケア入院医療管理料】、【回復リハ：回復期リハビリテーション病棟入院料】を届け出ている病床数
※4：第7次宮城県地域医療計画をもとに医療機関の実態に応じて記載